



一般質問するささい茂智 3月7日 県議会本会議場

## 修学支援基金に 負担軽減措置を!!

2月定例県議会  
防災対策や障害者の雇用  
拡大など6項目 一般質問で

2月24日に始まった2月定例県議会が、3月19日に閉会し、6487億1400万円の2012年度一般会計当初予算案など執行部提案76件、東日本大震災で発生したがれきの県内受け入れを促す決議案、県議報酬を10%削減する条例案など議員発議6件の計82議案を可決しました。

私は3月7日の一般質問に登壇し、防災教育の推進などの防災対策や、障害のある人の雇用など6項目にわたり質問。高校生修学支援基金の対応では、高校生の特定扶養控除の縮減により、定時制高校等に通う世帯の多くが負担増となったことから、こうした世帯への負担軽減制度の導入を求めました。

竹井千庫県教育長は「返還猶予について、猶予期間の緩和など負担軽減制度を整備したい」と答弁しました。

### 主な質問と答弁

#### 1. そうじゃ吉備路マラソン

2月26日に吉備路マラソンが開

催された。私もフルマラソンを完走したが、地域民総参加の一大イベントと実感した。今後、県は中四国最大となったマラソン大会にどう関わろうと考えているのか。

→ 私も多くのランナーの熱気や大会運営のボランティア、沿道で熱い声援を送る応援の方々の姿を拝見して、地域ぐるみの一大イベントであると感じた。今後とも、この大会が県全体のスポーツの振興や地域の活性化につながるよう、引き続き協力していきたい。(知事)

#### 2. 防災教育の推進

来年度から「実践的防災教育総合支援事業」に取り組むが、どうした取り組みを予定しているか。

→ 本年度、すべての学校園で地震を想定した避難訓練を行い、津波を想定した高台への避難など一定の成果が得られた。一方、避難行動につながる訓練の方法などの課題も見えており、緊急地震速報受信システムを使った訓練の実施や、防災マニュアル等の点検、地域の防災関係機関と連携した避難訓練などの取り組みを予定している。(教育長)

### 質問項目

1. そうじゃ吉備路マラソン等について
2. 防災対策について
3. 若者の雇用対策について
4. 障害のある人の雇用について
5. 修学支援基金の改正に伴う県の対応について
6. 新規就農者への支援について

#### 3. 防災対策総合ガイド

県では東日本大震災に対応した「防災対策総合ガイド」を作成したが、どのような活用・効果を期待しているか。また、ダイジェスト版を作成し、県内全戸に配布してはどうか。

→ 2万部作成し、市町村をはじめ、公民館や町内会、一般企業などからの求めに応じて順次配布しており、自らの命は自ら守るという自助の促進を大きな狙いとしている。また、ダイジェスト版の作成・全戸配布は、市町村とも協議し検討して

いく。(危機管理監)

#### 4.事業継続計画

中小企業の事業継続計画作成への支援を強化する必要があるが、今後どのように取り組むのか。

→ 県内企業を対象にしたセミナーや研修会の開催、業種ごとのモデル計画の作成支援の準備に着手しており、こうした取り組みを通じて事業継続計画作成を支援したい。(知事)

#### 5.若者の雇用対策

若者と企業のベストマッチングを進めるため、おかやま若者就職支援センターでの事業や合同就職面接会の拡充を図り、学生と中小企業の接点を強化し、次に、キャリア・コンサルタントの充実など高等技術専門学校における就職支援環境の強化に取り組んでほしい。

→ 若者就職支援センターでは、合同就職面接会の開催などに加え、若者に地元中小企業等の魅力を知ってもらうため、新たに学生と企業との交流会を開催する。また、高等技術専門校では、訓練指導員にキャリア・コンサルタント資格を積極的に取得させ、一人でも多くの若者が安定した就職につながるよう取り組む。(知事)

#### 6.障害のある人の雇用

県教委での障害のある人の実雇

用率は法定雇用率を下回っているが、その理由と今後どのように達成に向け取り組むのか。

→ 教員免許が必要なため、出願者が限られることが未達成の要因と考える。特別支援学校において障害のある人を事務や環境整備等に従事する職員として採用するなどの取り組みを進めており、来年度は高等学校へも同様の雇用を拡大する。また、教員の採用については、来年度から身体に障害のある人を対象に別枠を設け、選考を行う。(教育長)

#### 7.特別支援学校の生徒の就労支援

特別支援学校の生徒の就職率は、全国平均より低い。今後、就労支援にどのように取り組むのか。

→ 卒業後の就労による社会自立は重要で、高等支援学校2校を開校するとともに、特別支援学校高等部での清掃やバックヤード業務等の実習など職業指導の充実を図っている。来年度は、誕生寺支援学校の職業コースの設置に加え、新たに職業教育重点研究校を3校指定し、中等部から職場体験や職場開拓に取り組むほか、受入企業の実例報告や学校の取り組みを発表する就労支援フォーラムを新規に開催し、企業等の理解を促進する。(教育長)

#### 8.修学支援基金改正への対応

高校の授業料無償化に伴い、国が高校生の特定扶養控除を縮減したことで、定時制高校等に通う生徒の世帯の多くが負担増となった。このため、修学支援基金の積み増し等により、奨学金の返還猶予等の負担軽減制度が導入されたが、本県の対応はどうか。ぜひ負担軽減制度を実施してほしい。

→ 本県でこうした負担増となるのは、約3千人の生徒の世帯である。本県としては、返還猶予について、国の制度改正を踏まえ、猶予期間の緩和など負担軽減制度の整備を検討したい。(教育長)

#### 9.新規就農者への支援

来年度から始まる国の「青年就農給付金」と県独自の研修制度の調整や「経営開始型」における市町村との協力にどう取り組むのか。

→ 県制度は、きめ細かな支援システムや独自のノウハウで成果を上げている。国の就農準備型制度は対象年齢が45歳未満など課題もあり、55歳未満を対象としている県の研修制度をベースにする。また、経営開始型制度は対象者を市町村が集落単位で定める「地域農業マスタープラン」に位置づけることが条件のため、市町村との協力体制を強化する。(農林水産部長)

## ささい茂智 “プロフィール”



昭和38年10月13日 総社生まれ(48歳)

【学歴】昭和57年岡山県立総社高等学校、昭和61年創価大学経済学部卒

【職歴】昭和61年岡山県農業協同組合中央会、平成16年参議院議員谷合正明公設秘書、平成23年岡山県議会議員初当選(岡山市中区選挙区)

【議会】環境文化保健福祉委員会委員、防災・環境対策・新エネルギー特別委員会委員

【家族】妻、一男一女、母、妹の6人

【座右の銘】初志貫徹

【趣味】スポーツ(ジョギング、軟式野球)